

# 国重要無形文化財及び国選定保存技術の 保持者の追加認定について

国の文化審議会（会長 さとう まこと 佐藤 信）は、令和4年7月22日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、次のとおり重要無形文化財「能 のうシテ かた方」及び選定保存技術「甲冑 かつちゆう修理 しゅうり」の保持者の認定について、文部科学大臣に答申しました。

官報告示により、横浜市内の国重要無形文化財の保持者は1名となります。また、国選定保存技術の保持者は1名となります。

## 1 重要無形文化財の保持者の追加認定（各個認定）

年齢は令和4年7月22日現在

重要無形文化財	保持者		
(芸能の部)			
名称	氏名（芸名）	生年月日（年齢）	住所
<small>のう</small> シテ <small>かた</small> 方 能シテ方	<small>おおつぼ きんじ</small> 大坪 近司  <small>おおつぼ きみお</small> (大坪 喜美雄)	昭和22年5月30日 (満75歳)	横浜市

## 2 選定保存技術の保持者の追加認定

年齢は令和4年7月22日現在

選定保存技術	保持者		
(有形文化財等関係)			
名称	氏名	生年月日（年齢）	住所
<small>かつちゆうしゅうり</small> 甲冑修理	<small>にしおか ふみお</small> 西岡 文夫	昭和28年3月26日 (満69歳)	横浜市

お問合せ先

教育委員会事務局生涯学習文化財課長 宮田 純一 Tel : 045-671-3236

※本件については国（文化庁）及び県においても同時発表されます。

裏面あり

## 重要無形文化財 <sup>のう</sup>能 <sup>かた</sup>シテ方 <sup>おおつぼ</sup>大坪 <sup>きんじ</sup>近司 (芸名 <sup>おおつぼ</sup>大坪 <sup>きみお</sup>喜美雄)

### 1 保持者

氏名 <sup>おおつぼ</sup>大坪 <sup>きんじ</sup>近司 (芸名 <sup>おおつぼ</sup>大坪 <sup>きみお</sup>喜美雄)

生年月日 昭和 22 年 5 月 30 日 (満 75 歳)

住所 神奈川県横浜市

### 2 保持者の特徴

同人は、伝統的なシテ方宝生流の技法を高度に体現し、地謡や後見での力量も含め評価が高く、現在の宝生流を代表する能楽師の一人として重要な位置を占めている。また、後進の指導・育成にも尽力している。

### 3 保持者の概要

同人は、昭和 34 年に <sup>ほうしょうふさお</sup>宝生 英雄 (後の十八世宝生宗家) に師事し、翌 35 年には <sup>くらまてんぐ</sup>「鞍馬 天狗」の子方 (花見) で初舞台を踏んだ。昭和 39 年にシテ方宝生流 <sup>おおつぼときお</sup>大坪 十喜 雄 の養嗣子となり、当時の宝生宗家十七世宝生 <sup>くろろ</sup>九郎 にも師事して更なる研鑽を積む。昭和 46 年 <sup>こちょう</sup>「胡蝶」で初シテを務め、その後も同 51 年に <sup>しやつきょう</sup>「石橋」、同 57 年に <sup>どうじょうじ</sup>「道成寺」を <sup>ひら</sup>披くなど、着実に芸歴を重ねた同人は、古稀以降も平成 29 年 <sup>おうむこまち</sup>「鸚鵡 小町」、令和元年 <sup>そとぼこまち</sup>「卒都婆 小町」など流儀の重要曲を多く務め、現在に至っている。

能シテ方五流の中でも、宝生流は特に滋味深く繊細な謡を特徴とする。こうした宝生流の伝統的技法を高度に体現し、かつ端正な舞とともに各曲の曲趣を的確に表現する同人の舞台は高い評価を得ている。また同人は自主公演「大坪喜美雄の会」を開催するなど意欲的な活動を継続するほか、これまで長年にわたり後進の育成にも尽力している。

以上のように、同人は、能シテ方の技法を正しく体得し、かつ、これに精通しているとともに、その技法を高度に体現している。

## 選定保存技術 <sup>かっちゅうしゅうり</sup>甲冑 修理 <sup>にしおか</sup>西岡 <sup>ふみお</sup>文夫

### 1 保持者

氏名 <sup>にしおか</sup>西岡 <sup>ふみお</sup>文夫

生年月日 昭和 28 年 3 月 26 日 (満 69 歳)

住所 神奈川県横浜市

### 2 保持者の特徴

同人の甲冑修理は、平安・鎌倉期の <sup>おおよろい</sup>大鎧 から <sup>とうせいぐそく</sup>当世 具足 など中近世以降に至る幅広い時代の甲冑について、安定した技術と確かな見識の下に、適切な保存処置を施すことにおいて、高い評価を得ている。

### 3 保持者の概要

同人は、昭和 53 年より甲冑製作を独学で始めた。昭和 56 年、甲冑師森田朝二郎氏に師事し、甲冑製作、修理に従事し、同技術を体得した。

同人は、平安・鎌倉期に用いられた比較的単純な構造の大鎧から、<sup>とうせいぐそく</sup>当世 具足 など中近世以降の立体的かつ複雑な構造の甲冑に至る、幅広い時代の甲冑について、修理や復元模造の豊富な経験を積んでいる。甲冑を構成している金具や <sup>こざね</sup>小札、<sup>くさずり</sup>草摺 等、各部の復元模造や修理に必要な金工や皮革工、漆工等の多岐にわたる工芸技術を修め、多様な材料や材質に応じた適切な修理や構造の補正等において、数多くの実績を有している。

同人は、修理事業及び模造事業を通じて、後継者育成にも積極的に尽力し、日本甲冑文化の保存と継承に大きく貢献している。